



南無秋乃夜

中村俊定文庫
文庫 18
732



古乃係無何可堂
日弟為季
我字子信婦
與茂
性之本
主
茂登之久堂
作高可林
路

明治三庚午年

葉月吉辰

美取入湖帆



物の日其月その物子あふりてうの伯ういきいの下ふ
いへる山路の秋の月いふくふらうつきはありや
年長ひさなりへる人くおむえてひとあき
の御諸もものせめてもいさをなくさめん
と志ろく法席のあとをたおふ

辞世

鬼伯居士

あそいゆく山はあくる秋の月
けいふくも草の
松拍すきも志ぬ風くちりて
舟くくくく四五豆の下黙
明やしきり水はの朝ほけ
あててるもなく習手ななく
血鉾も夏のうくすなりある
名なつけてえる羊目乃雨
よろくと堅田とやりの舟車

草丸
可都里
何鳥
鳩村
天心
漫く
乙見
方居

我むきく不ぬむとく
少たろくあへう務る
ゆめお根もも川今淋
ホとほくして柳のふをそ
宿のいをれの清きつ杖持
鱒汁垂のありれす
古別當りひとりもの
禪しやふ宵の月柳のあ
死方不をく秋のぬ
猿人も白ちう川きの墓す
るそ火あくく水のある
らる花不起てるもなく雨の
物存をとをんらふの
春くくぬ雀のあうのい

朝平
大年
菊兒
以京
和角
曰糸
由聖
錦
瓢恩
今乐
旌利
金英
志川
八重

萩も仁石竹いさかきりふしの月
首ひ移る馬も春の寒くさう風
柳より柳より若し不二の山

佛野山

ウキたあけ穂家の竈土の若くは

白雲

年ひする松をさく七のまて柳の花
すくく水ぬもの笠帯よ年のくは
あけてたかく園をさく水ぬ盆の月
さくくく風吹窓や五月雨
仁とあけきか佳の鳥や春のりる

ある人の加賀不松といふ歌

君う代のものなびろり人青杉松
十の松ふくさくとありさく松福うな
降雪やめつくとくある人の鳥
するすのめさくくさくく菊の花

花の山誰か掃やうき水いかなり
夏のまてさくの羽さのあさく
風うたふる鳥をあけり馬可南
高砂へゆくといふ人あうも
うあうは伊吹へむけてあへる
五月雨や人平く水さき草の庵
雪の入うさくある枯木うは
ゆふへく啼て今宵の二つとさく

西國順礼歸玉の詠子傳ふ

キ一の尾のうりあり一尾よ階子賣
一う糸の雲田ハアリ羽音可南
り秋や同じもとさくぬ釣のい
ありはてやとめてもく水ぬ秋の暮
名月や仇をききする舟の音

柳花
希々
千丈

鬼洞

若人

白雲

草龍
素榮

まこの
何彦

泉何
仙市

文起

吐大

斗隆

蕉雨

壺伯
一之
寧園
金英

女
松兄

士朗

方明
岳洛

みるく細のあう川きもある様無爪
 笠守やをぢのやう小啼ちとと
 五月雨のよめ小窓ある漢村は
 九日も山路をくまきくの花
 出梅ひことも水もくぬ舟舟り
 菜の花小ぶら花田一くう淀の鯉
 川年も人やとたけく梅の花
 自家のまらひ出さる山路可南
 六月下がりて涼きゆふへう
 石和御一日のつゝき越をわらわ
 草の戸の梅をくまきく咬る
 却れてまて榎の實越たほ
 推採や雨のぬれてまきく
 自家や壁も板戸も秋のうけ

青川
 椿山
 共若丸
 田木
 山李
 魯魯
 長崎
 瑞馬
 升六
 大魯
 卓池
 樽堂
 桐栖
 蝸國

筆記のーア不はひとちキもとまりうんえとく
 いち月出ーぬえとせも先のかりん

乙と益木の居たー出さるく
 起て米四買春風乃
 音もなる忙ハ自由な乃越持て
 所の喧嘩乃根もなる
 年越す川汲茶乃月のおもす
 雪耳一嵐の巢越たふ
 奥山む下乃枚子のあ
 寺一算の石乃志乃なる時
 塩魚の瀬ーめりの旨乃膳
 手のひら水ぬ麦乃一
 恋くゆ八目ゆーもく
 帯きしりてやるんぬのきぬ
 ちもなき十六板あ川の岸月

鬼伯
 草丸
 伯
 外丸
 伯丸
 外丸
 伯丸
 外丸
 伯丸

伝水見ておろるあししの穂歌
瘦骨の似合しき秋とかりふ
夏の滝ゆく海生津乃雨
花もそなく柳もそなき家のへ
むしあつめ春のひと川看
臙脂のうちあつるあけつ木賣
ぢりある念佛宿の小豆し
百足おろる肉花歌との
麻の弦そくたしきるそなき
甲うけあつるきさ方地のゆかへ
産ゆきそ時くの吟村結
皂角きし雪隠乃ち
田下う付て啼なる五六月
小袖の宿あふきし月
秋あは女帝花もまけし

お伯九お伯九お伯九お伯九お伯九お伯九お伯九

眉そ恨のゆめぬくほれ
今津盆十牧つふくけりけ
はま川ほとあある天
吹れてはあ乃馬のけなる
足そあある祖父の壺の中
又あつて花もあある茶屋の
小魚のまらる春雨のひま

お伯九お伯九お伯九

茶のつれいぢあはるのとも
町國の人く

京そ出てま川し
なうめやる杭のうらむ花

榎村
堀
岳

茅枯て麻田むる柳や春寒と
活々きく山泉の人のあつらふし
埋火やとくく不木のものくき

加茂の里より八幡の里へ
この里と所へ出の破つて

水あひる鳥淋しやんれ乃春
あつた籠あつた出しと木もひら
柳々香や垣穂千た和きく月
松一本あり川堂の柳とかりぬ
軒ひく川横ふさくや花はく
春とりふ秋すく家かり啼きく

窓の朝ふれハ雀乃り
おとろくあ水て

柳の花葉の木鳥千出てる水
ひくくくと月ハ福むしと
七夕や手向りふくも一節切

自家ハ雨とかりりり小柳きぬと

青き白雲ハ樹の香うけのき

時を宵草外乃麦乃宿
竹不の川竹並の古くもや初ハ

自家ハいめの山むくぬ

木くくハの垣吹とき日の出る
との田もくくあつと夏乃月
見つくと果ハ流りさくくハ
此木松音のきくてあつた
川かり小石火を通る
燕子花草の粒たすく

あり山さのふくく口すく水ぬ
くこのきくく中不たおろき
あつたもた多し紀の路能地
後まよ解千とく水あつ月雨
川春やうあつたきく不二の山

希由
何多
朝平

可都里
柿丸
廿端
太年
丑考
雪蘿

蛙文
乙見
笨川

其致

虎丘
东陵

方居
一素
东素
一乐
青く
祥头

天
漫

脊戸口や雪をこてえさるき川をこ
萩平古萩のさそりか川二日月
白やや初雪さすく雨の明さる
らくくし梅見るほとの月お汁
春雨や雪ものふさなる鐘のた
たもーろくあけえくもる卯月
家根虫け日の朝起よ啼ひさり
有明や庭をけえ梅のちりか
時を啼や田中カウつうあひ
松々もさほくく音や啼ちりさ
おもーろき小橋の寂や梅の花
あぢうち深くくぬ木の目ふ
あふくきまて住流し
あふ人の室ろて
夏ちりき常平し清るるあつら
啼かーるの他さよほくさる

あぢ雅
柯松丸
志末
志伯
其和
亀也
古園
方舟
百毒
五氏
文仲
左岳
松丸

谷月や谷月しーる谷九憲
のふくして何小筆くぢる友の花
五月雨や青葉わくくくのと川橋
木くーのやめえやむもの庭の松
下啼ややハちれれくもさる
草卧てすさるのくへる月お汁
糶糶疑のふと川をりい持て
二人ーてくるめ焼くく朝うけ
月まけへくせうつきり梅の花
三あホ大橋
むく起りて花さけてり都うら
夏竹不そーささるゆや宵月
山里やるるものりてく小の月
正月やもさ啼する雨り
口のたもき人の新端よ花さる
時をささるのくハさほ川

我友
有交
魚葉
樗冠
破鳥
陶松
成之
部氏
南嶺
吟朝
志也
文鏡
嵐外
由也

山へ己の草多し雨降所とき
一八平風のなき白ハナリ
鳴きく虫多し月相となりま

所 思

今ハとて田ヲもたくり花の莖
てり水来て袖よりつく螢ハ
里人の来へき朝なり柳の花
秋の花赤くあのおちにさくせり
てり秋やゆかへくの松々き
柳の子やあり小菫の花むれゆく
軒のそと多し田乃り

白鳥の云ハ一羊日
同 秋 乃 とき

五雷四男と日のおもろきほえん

草丸

日 糸
和 角
伊 京

昔 菫 兔 伯 ぬ 々 々 年 の 初 秋

昔 菫 兔 伯 ぬ 々 々 年 の 初 秋

昔 菫 兔 伯 ぬ 々 々 年 の 初 秋

昔 菫 兔 伯 ぬ 々 々 年 の 初 秋

昔 菫 兔 伯 ぬ 々 々 年 の 初 秋

昔 菫 兔 伯 ぬ 々 々 年 の 初 秋

惜み板の彫り
乃心いし
事いし
みいし
と、いし
わいし
わいし
わいし
わいし

友いし
業いし
友いし
友いし
友いし
友いし
友いし
友いし

昔茶をり現多に在りし時諸好生の
 心も亦も書いりていりていりていり
 書いりていりていりていりていり
 心も亦も書いりていりていりていり
 のこころもま源の心腹いり

御幸町錦小路上
 桃林堂勝田喜右衛門
 京都書林 鳥丸下立賣上
 橘榮堂勝田善 助

茶の心

